

木造天部形立像 2 軀

木造天部形立像

もくぞうてんぶぎょうりゅうぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品〔彫刻〕

所有者

宗教法人 宝珠院(ほうじゅいん)

所在地

大阪市北区与力町 1-2

紹介



木造天部形立像(宝珠院)

宝珠院は、北区与力町に寺地を構える、空海創建と伝える、市域有数の真言宗寺院のひとつである。秀吉が造営した寺町のひとつ、天満寺町に軒を連ね、天満宮寺とも称され、中世には、大阪天満宮の神宮寺であったという説もある。本堂にまつられる 2 軀の天部像は、像高が 149 センチメートルと 148 センチメートル、形状や構造が通じ一具である。忿怒相を呈して着甲し、制作は 14 世紀後半から 15 世紀初め、南北朝時代とみられる、市域に伝来する貴重な中世彫刻である。